

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホーム ぬくもりの里
訪問調査日	平成 19 年 7 月 19 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 2 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3676300140
法人名	有限会社澤津ケアサービス
事業所名	グループホームぬくもりの里
所在地	鹿児島県曾於市大隅町中之内6078-9 (電話)099-471-2802

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	平成19年10月2日

【情報提供票より】平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23人	常勤	13人, 非常勤 10人, 常勤換算 16.1人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建
------	-----------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900		円

(4)利用者の概要(平成19年5月1日現)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 87.9歳	最低	74歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	愛誠会昭南病院 井上歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは県道63号線の田園風景の多いのどかな地区に存在する。ホームの中庭は広く、洗濯干し場があり、横にはテントを張った場所があり、外で食事をしたり日向ぼっこなど屋外活動ができる。事業所の経営は家族4名が日々の介護サービスに関わりを持たれている。そのため入居者、職員の把握が充分なされ、すべての事態に対応が迅速で、細やかである。管理者が自分の家族と暮らす気持ちで接している姿は職員に浸透し、利用者本位のケアがなされている。尚介護度の高い方に対しても、介護、看護に万全な体制で向き合われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に於いて特別要改善とするものは無かったが、ホームは今後に向けてホームの機能を地域に更なる還元意向があり、その取り組みとして認知症介護教室の開催を運営推進会議に於いて提案したが開催の実現までには至らなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は先ず全職員に項目の文章を配布して考えてもらい、その後、夜勤者以外全員参加のミーティングを開催して、一つ一つの項目の話し合いが行なわれ作成された。自らのケアの振り返りの機会と捉え、より高い目標を目指し改善に向けて取り組みがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は昨年1回開催され、それ以降2ヶ月に1回の開催が実現ならず、現在8月25日に第2回目の開催が計画されている。開催の一番ネックとなっていた参加者の日程調整の手順がこの度できたので、今後この会議を積極的に取り組まれ事業所側の姿勢を示す事で参加者からの意見を引き出し事業所のサービスの向上に活かされることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見が出しやすいように家族会を開催、面会時の対話に於いて意見が出しやすいようにしている。第三者である民生委員による苦情窓口も設置してある。ユニット毎に苦情担当を決め電話の受付や対話で聞く体制を作っている。納得いくように苦情の対応もしている。不安への対応としては毎月ホームの新聞を発行、便り、面会時、メール配信、電話等で生活の様子を伝達し細やかな配慮がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの経営者、職員、入居者等殆ど地域住民であり日頃から地域との交流は盛んである。近くに高齢者コミュニティセンターがあり、外部高齢者との交流機会が多い。近くの小学校行事への参加、ボランティアの受入、誕生会への招待、認知症介護実習研修生の受入、近隣住民との関係作りができています。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年4月の介護保険制度改正で、グループホームが地域密着型サービスの一つとして位置付けられたことで、管理者は職員と共に地域密着サービスに相応した理念を作り、今までの理念の見直しがなされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に新しい理念について周知しているが、未だ見直し前の理念の取り組みまでに至らない。全員が日々実践に活かすことが出来るように、ミーティングに於いて斉唱し新しい理念が浸透するよう取り組んでいる。		理念が浸透するように毎月ミーティングに於いて斉唱する取り組みをしていくと共に、提供場面に於いて理念を意識して、取り組まれることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営者、管理者、職員、入居者の殆どは地域住民であり、ホーム開設前の付き合いは継続している。ホームとしても地域行事に参加し、地域高齢者の訪問も多く、ボランティアの受入、研修の受入など地域住民との交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員(夜勤者以外)全員で、項目に取り組んでいる。管理者は自己評価を全員で取り組むことで、提供サービスの見直しの機会と捉え、評価を活かしサービスの向上につながるよう努力されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への取り組みが2ヶ月に1回開催するに至っていない。管理者は会議のメンバー招集の日程調整に苦慮され、開催が遅れたが、今回開催に向けて参加者への呼びかけ手順に良いアイデアを思いつかれている。		運営推進会議は2ヶ月に1回以上開催するよう省令で義務づけられたもので、その意義や役割を充分に理解され、事業所からの報告と共に、参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議として定期的に継続開催して欲しい。

鹿児島県 ぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には、管理者又はケアマネジャーが毎月事業所の新聞を届け、ホームの日常運営の報告をしている。その他ケアプランの情報提供、利用者の報告、事務所拡張申請、行政指導場所の受諾、包括支援センターから入所者の紹介を受けたり連携ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	管理者は家族が知りたい情報を意識して居り、入居者の暮らしぶりを毎月新聞を発行し家族に送っている。その他メールの交信もしている。訪問できる人には談話で伝え、預り金の報告をし確認をもらっている。急変時、通院時等は電話にてその都度連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催している。家族の参加は多数あり、ホームから理事長、管理者、一部職員が参加している。不満や苦情の受付も各棟に受付責任者を置き電話や対面で受付をしている。その他の第三者窓口(地域の民生委員)を設置する等家族からの意見を求め、意見を反映につなげる姿勢である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が入居者にダメージを与える事を理解している。認知症について理解していない人が定着しにくいことを把握しており、採用に配慮し、職員には全員「バリデーション」という本を買ってもらい、勉強し、意識を高め離職を少なくする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時はマニュアルに沿って研修をしている。継続研修として、2ヶ月に1回、協力機関による認知症勉強会に夜勤者以外全員参加している。参加できなかった人も研修報告で学べるようにしている。その他の外部研修も出席者の報告で学べるようにしている。ホーム内では「バリデーション」の本に沿ってトレーニングしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力機関の「夜明け会」認知症の勉強会に他のグループホームも参加しており、一緒に事例発表、意見交換、講師の話などを聞いている。管理者、職員は町内のグループホームと知り合う機会が出来て、ホーム間の交流がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの入居者は病院から直接利用するが多い。利用前は病院に出向いてはいるが馴染むまでにはいかず、入居してから馴染むように、家族に面会をお願いしたり、家族に泊まってもらったり、自宅にお連れしたり馴染んでもらう努力がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度の人が多いが一日の流れの中に於いて食事、掃除、洗濯、レクリエーション場面でその人が出来る事を見つけ支え合いながら一緒に過ごすように努めている。その人しか知り得ないような話(戦争、本物の鉄砲、野菜作り、ちまき作り、昔の菓子作り、からいも飴作り)から学んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、その人の言葉や、態度、表情から希望や意向の把握をしている。表現が解り辛い人は、家族から聞く。その人の良いところを見つけて(数字に強い、漢字に強い、歌が上手、諺が得意等いろいろな得意な場面に於いて)働きかけ笑顔がみられたら情報の共有が出来るように連絡帳に記入する。		
チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、本人、家族、職員全員で、本人がより良く暮らせるようにモニタリング、カンファレンスを基に課題とケアのあり方を話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		週1回のカンファレンスで、日々の気付きを連絡帳に書くようにし、介護計画に反映させようとしている。しかし未だ徹底するまでに至らない。小さなことも見落とす事が無いよう記録され、介護計画作成に反映できるよう期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の定期見直しをしている。夜勤者以外職員全員で日々の観察記録を基に1ヶ月に1回モニタリングしている。介護計画の遂行状況に変化が見られた場合家族の要望に応じ期間が終了する前であっても見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を病院としており、病状に変化があっても、入居者の方に安心して生活を続けてもらえるよう支援できている。自主サービスとして外泊支援、通院の支援、検査の送迎をしている。又長期入院中の空き部屋に、自宅で認知症を抱え介護が限界に達している家族に代わり一時的に受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医の受診に家族が通院介助が出来ない場合、家族と話し合い了解の基で介助なされたり、訪問診療を依頼したり、複数の医療機関と関係がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明をし、延命処置の希望の有無や経管栄養の胃ろう希望の有無について家族の意思確認書に記名捺印を貰い終末期に向けた方針が共有なされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミーティングに於いてプライバシーを損ねる態度が見受けられた時は、早急に注意し見直しをしている。職員採用時にはプライバシーについて説明をすると共に情報流出しないよう、誓約書を取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の時点でホール担当者が脈を摸ったり、身体状況の聞取りをすることでその日の体調に応じ、その範囲に於いて希望に沿ったスケジュールを決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った野菜を収穫し、好みの献立を取り入れ、出来る範囲調理にかかわりを持ち、職員と一緒に、楽しい談話を交えながら食事をしている。手作り弁当を外で食べたり、時には外食をしたり楽しむ食事の支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人で入浴出来る人が殆ど居なく、毎日午後から本人の希望(入浴時間)に沿って入浴している。失禁や外出する場合は午前中でも入浴している。重度の人もゆっくり湯船に浸かれるようにリストバスが設置してある。自分から進んで入りたくない人が多いが、入浴しない日が続かないように気配りし、自ら入る気持ちになるように誘導の声を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一日の流れの場面で、一人ひとりの出番を把握しており、感謝の言葉を返す事で役割が楽しみにつながるよう支援されている。レクリエーションに於いて得意な計算、漢字やことわざ遊び、ボールや風船遊び、カレンダーづくり等楽しみの支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や体調、気分を考慮しながら車椅子での散歩や車で買い物、自宅へのドライブにでかけている。さくら棟では「戸外に出かけよう」と目標を掲げ、全員で公園での食事や外食をする等積極的に外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間建物に鍵はかけていない。車を見ると我が息子と勘違いし、いきなり道路で車を止める人が居り、門扉は閉めている。万一に備え名札をつけ、近隣の人と連携し協力をもらっている。		出かける様子に気配りし、外に自由に出かけ満足できるよう取り組みを考えている。安全面に配慮され自由に出かける事が出来る支援を期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練をしている。職員はマニュアルを見ないでも色々な火災状況を想定した連絡手順、避難対処を知っている。先ず火災が発生しないようコンロはロックがかかるようにしており、タバコは吸わない。1棟に2ヶ所消火器の設置あり。地域の協力体制も働きかけている。台風には備え食料、飲料水の備蓄をしている、雨戸が設置してある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー必要量や水分量は把握している。体調の気になる人は摂取量の記録もある。半年に1回定期的に血液検査をして結果を参考にし、栄養のバランスに役立てるようにしている。献立は年に1回協力機関の栄養士さんに見てもらっている書類がありカロリー、バランスとも問題点は無い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花が生けられ、願い事が書かれた七夕飾りがあり季節感がある。畳の居間、掘り炬燵は居心地良く過ごせるスペースとなっている。天窓の光を遮断するすだれ、窓からの強い光をさえぎるよしず等落ち着いた雰囲気である。24時間の換気で空気のよどみもなく、温度管理もされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は備え付けのベッド、クローゼット、小物入れがありそれ以外は本人持込の備品である。手作りカレンダー、写真、鏡台、時計、椅子、畳を敷く等本人が落ち着き、使い易く、その人らしさの暮らしが感じられる部屋である。		